

社会復帰支援チーム活動報告

医療法人 誠和会 倉敷記念病院リハビリテーション部

○金井敦史，古畑恵，石原佳子，福田智哉，唐川佳明，西口萌
福村侑南，渡部朱美，林日菜子，陶山夏実，常盛結希，大月成美
伊達咲乃，松岡和幸，三好廉斗，石川愛央衣，
梶原友海，野津咲紀，山田理恵

【はじめに】

当院では、2018年4月に回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ）に所属する作業療法士（以下、OT）、言語聴覚士（以下、ST）を中心に自動車運転支援チーム（現：社会復帰支援チーム）を発足した。現在OT12名、ST7名の計19名が在籍している。主に入院患者の退院後の自動車運転（以下、運転）再開や、復職に向けた支援の為に、道路交通法や神経心理検査法の理解、学術的な知識や技術の共有を行い、臨床における治療効果を高める事を目標に活動している。以下に、2024年度の活動内容、今後の展望について報告する。

【対象と方法】

対象は当院回リハに2024年4月から2025年3月までに入院された脳卒中および頭部外傷患者のうち、退院後に運転の再開を希望し、道路交通法に基づき、自動車免許取得の基準を満たす14名とした。内訳は男性11名、女性3名、平均年齢は65.8歳であった。脳梗塞が8名、脳出血6名であった。2018年に主治医、リハビリテーション科医、療法士で作成した当院独自の運転支援マニュアルに加え、2021年度以降は日本高次脳機能障害学会（2020）による「自動車運転に関する神経心理学検査の適応と判断」¹⁾の指針およびフローチャートを併用し、運転支援を実施した。運転再開可否の評価については神経心理学検査や身体機能検査、必要に応じて自動車教習所での実車評価を実施した。

【結果】

運転支援者14名の内、運転再開可能は8名、運転再開困難は6名であった。神経心理学検査で高次脳機能に大きく障害が無いと判断され、実車評価を実施したのは3名であり、その内3名が運転再開可能となった。入院中では運転再開が危険と判断され退院後に外来リハビリテーション治療に移行したのは5名でありその内、2名が運転再開可能となった。

運転支援者 14 名のうち、約 57%が運転再開可能、約 43%が運転再開困難であった。

【まとめ】

当院回りハは自動車運転支援を開始し約 7 年が経過している。今後の課題としてこれまでに蓄積したデータを基に、傾向を分析、他院との比較を実施したいと考えている。さらに自動車運転支援のみならず復職の支援の流れをマニュアル化しシームレスな支援体制を整えたいと考えている。

【文献】

1)蜂須賀研二 他：脳卒中、脳外傷等により高次脳機能障害が疑われる場合の自動車運転に関する神経心理学検査の適応と判断。日本高次脳機能障害学会 Brain Function Test 委員会，運転に関する神経心理学的評価法検討小委員会 2020